

## 説明資料

小田急下北沢作業所の躯体構築の現場ではスラブ上での作業が行われている。しかし、側壁から伸びているアンカー筋が露出している形となっている。このままでは、作業員さんが不注意で露出したアンカー筋に触れ、けがをする恐れがある。そこで露出したアンカー筋にまとめて栈木をつけ、アンカー筋を防護した。またピンクの目印テープをつけ、見やすいように工夫をした。

これにより労働災害の見える化を実現した。

